

くすり博物館だより

NAITO MUSEUM OF PHARMACEUTICAL SCIENCE AND INDUSTRY

内藤記念くすり博物館 〒501-61 岐阜県羽島郡川島町 Phone: 058689-2101



企画展

病む目とめぐすり

… 11月28日まで開催 …

目薬の製造・販売に関する資料の企画展は、今回がおそらく初めてです。資料自体は地味なものが多いのですが、とりあげられたことがなかったものだけに、いろいろご質問も寄せられました。その中から目薬の成分についてご紹介いたします。

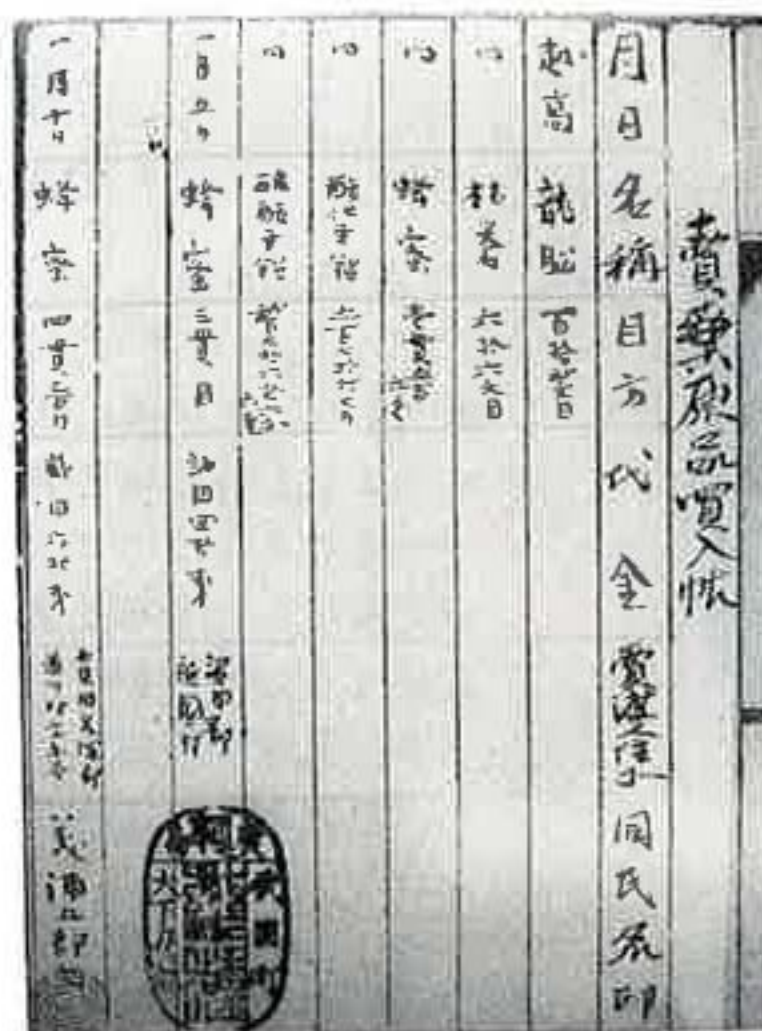


昔の目薬にはどんな薬品が使われていたか

硫酸亜鉛

安の目薬の資料で、1893(明治26)年の『賣薬(=売薬)原品買入帖』には生薬を購入した記録があります。

この中には、硫酸亜鉛・酸化亜鉛・蜂蜜・枯礬(こばん)・龍腦(りゅうのう=リュウノウコウの樹脂)の名前が出てきます。硫酸亜鉛・酸化亜鉛などは微量で殺菌効果があります。枯礬は、ミョウバンから結晶水をほとんど除去したも



▲『賣薬原品買入帖』(明治26年)

ので、収斂作用があり、消炎剤として用いられます。ですから、これらを含んだ目薬は伝染性の眼病に有効だったと思われます。

日本で初めての液体の目薬とされる精錫水(せいきすい)も、硫酸亜鉛を主成分とする目薬とされています。

硫酸亜鉛は、昔から皓礬(こうはん)と呼ばれ、点眼料として用いられてきました。

『本草綱目(ほんぞうこうもく)』に「目を明らかにし、…目中一切の諸病を治す」と書かれている炉甘石(ろかんせき)も、硫酸亜鉛と考えられています。

精錫水 ▶
(6×3cm)





▲コカイン水 (136×18cm 明治-大正)



▲ヤラッパ丸、コカイン水 (50×122cm 大正時代)

塩酸コカイン

企画展会場に展示してある看板に「塩酸コカイン水」と書かれているのを見て、「コカインって麻薬じゃないの?」とびっくりされた方も多いようです。もちろん現在では麻薬として法的に規制も受けていますが、くすりとしては局所麻酔剤として用いられています。鎮痛作用を期待して150倍に薄めて点眼に用いられました。1926(大正15)年の『賣薬製造發賣要覽』や1928(昭和3)年の『賣薬製法全書』にも塩酸コカインを用いた目薬が紹介されています。

このほか点眼料として、塩酸コカインに塩酸エピレナミン液・蒸留水を配合した複方コカイン水などもあったようです。

◇目薬に用いられた薬草◇

メギ(=目木)やメグスリノキ(目薬の木)のように、名前自体が薬として使われたことを示すものやトネリコやクワなど昔から用いられてきたものを展示しています。



真珠

『真珠散』と書かれた紙看板が展示されています。では、真珠は本当に目薬に用いられたのでしょうか。

展示中の『眼病秘伝巻』には、真珠を含んだ処方、「真珠散」「大真珠散」として書かれています。

そのほかこの本では、真珠は、「痲瘡目ノ妙薬」として目にさす薬や、打ち目などの際に用いられる「金竜丹」という練り薬など、様々な目薬の成分として名前があげられています。

また、『普救類方(ふきゅうるいほう)』



▲『眼病秘伝巻』

は、江戸時代の民間療法を紹介したのですが、その中には「眼(まなこ)の中に努肉(どにく*)を生じたるに」として次のような治療法が紹介されています。

「貝子(たからがい)を焼(やき)て粉(こ)にし 真珠(かいのたま)等分同じく研(すり)て至極の細末にし 努肉の上に付けてよし 五六度程傳(つく)べし」

つまりタカラガイ(子安貝ともいう)を焼いて粉にしたものと真珠を同じ分量だけすりまぜたものを目のできものにつけるという訳です。真珠の主成分は炭酸カルシウムですから、消炎剤として用いられたと考えられます。

*努肉=『病名彙解』によれば、「眼中へ タダレ肉ノ指(サシ)出ル」症状のこと。

こんな展示資料もあります

◇たにしの藁（わら）づと◇

企画展を知って岐阜県笠松町の宮崎惇様にご寄贈くださいました。

これは、藁を束ねてタニシを包んだもので、宮崎様が昭和36年に新潟県で手にいられたものです。眼病の治療を祈願して、不動明王に奉納したものということです。



◇安の目薬の製薬作業場の写真◇

昭和5年に撮影されたもので、中央の左の白い二階建ての部分が作業場です。原田威夫様より、ご提供いただいたものです。



「薬と健康の週間」をご存知ですか？

『薬と健康の週間』は、昭和24年に始まりました。これは、戦後新たに発足した薬剤師協会が、米国薬事使節団の来日歓迎の意味も兼ねて行った行事を発端としています。

現在では、10月17日～23日に医薬品について皆さん

が理解を深めることができるよう、様々な行事が各自治体の薬務課、薬剤師会、薬業組合を中心に行われています。

皆さんもこれを機会に、自分や家族の健康管理についてふりかえてみてはいかがでしょうか。

【くすり与健康・いまむかし】

現代のように、病気になったらすぐ病院や薬局へ…という訳にはいかなかった昔、どのように対処したのでしょうか。くすり博物館の資料から、昔の人の知恵を紹介しましょう。

～身近な薬草を頼りに～

昔からの経験をもとに、様々な民間療法が伝えられ、試されてきました。

『救民妙薬（きゅうみんみょうやく）』

徳川光圀（みつくに）が侍医に作らせた家庭医学書です。現代の民間療法でも見受けられるような、痔にいちじくを用いる方法、歯痛に茄子の黒焼きを用いる方法なども書かれています。

『普救類方（ふきゅうるいほう）』

1729（享保14）年幕府が、へき地で医薬が乏しい地域の人々を救済するために、山野で採集しやすい薬物を選んで、症状別にその使い方を紹介した本です。

～日頃から食べ物には注意して～

普段から食べ物や水に気をつけることで、病気が侵入してくるのを防ぐことも重要な健康管理でした。

『食合御要心（くいあわせごようじん）』

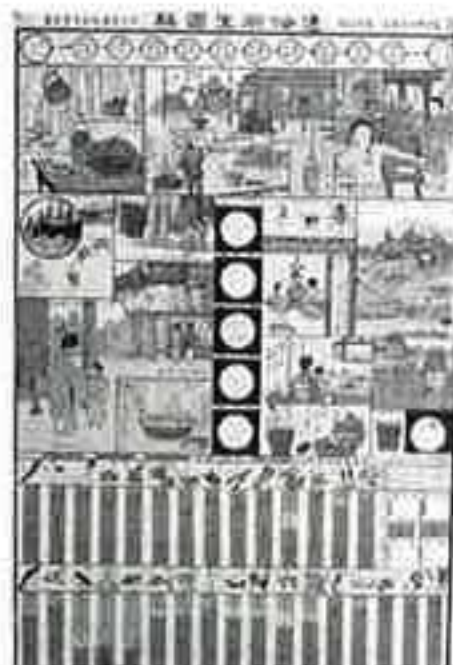
1902（明治35）年に作られた食の組み合わせに注意を呼びかけるちらしで



▲『救民妙薬』



▲『食合御要心』
（明治35年）



▲『普救類方』



▲血圧計を利用する来館者の皆さん

▲『通俗衛生図解』
（大正時代 77×51cm）

す。食べ合わせ自体には科学的な根拠はありませんが、いり豆とカニのように、消化の悪いものとなまものなど、避けた方が無難なもの組み合わせが多いようです。

～身の回りを清潔に～

近代になって、日光消毒やハエやカの駆除、手洗いの励行など、ちょっとした心がけで病気は未然に防ぐことができるようになりました。

『通俗衛生図解』

大正時代のもので、規則正しい生活や適度の運動を説くとともに、公衆衛生の必要性を絵でわかりやすく示しています。

…病気になってみて、やっと日頃の健康管理の重要性を痛感したという経験をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。くすりや医療は、なるほど私たちの健康管理に役立ってくれます。しかし、それはあくまで補助的な役割であって、自分の健康は自分自身で守らなくてはなりません。

くすり博物館では、カロリー計算機・全自動血圧計・全自動身長体重計（肥満度計測もできます）・全身反応測定器（どれだけ機敏に動けるか測定）・握力計などが用意してあります。一度試してみてもいいのではないでしょうか。

ポマンダーを作ってみませんか

くすり博物館恒例の夏休みこども教室では、今年はスパイスからのカレー作りとポマンダー作りを行いました。そのうちのポマンダーについてご紹介します。

ポマンダーとは聞き慣れない名前ですが、オレンジやレモンなどにクローブ（丁子=ちょうじ）を刺した、防腐・防虫作用のあるおい玉のことです。

クローブはちょうど釘のような形をした生薬・香辛料で、強い芳香油成分を含んでいます。身体を温め、消化を助ける働きがあり、スパイスとしてはシチューの香りづけに使用します。

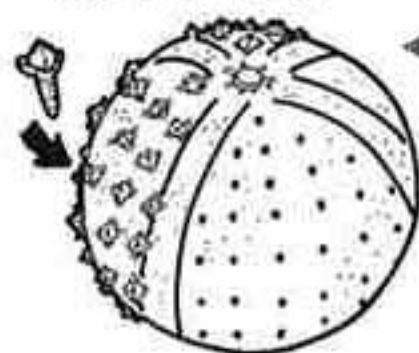
《用意するもの》

オレンジかレモン…1個
クローブ…約100g
（漢方薬局で売っています）
リボン…50cm程度
（好みで長くしてもかまいません）

《作り方》

- ①リボンをかける位置に、マジックなどで印をつけておきます。
- ②針やつまようじなどで穴を開けながらクローブを刺していきます。土台となるオレンジやレモンが乾燥して縮むので、乾燥したときにクローブ同士がぶつからないよう、少し間隔をあけて刺すと、後できれいに仕上がります。ただし、リボンをかけるところには刺さないでください。
- ③好みでシナモン（肉桂=ニッケイ）の粉をまぶしてもよいでしょう。
- ④クローブを刺した穴から果汁がしみでますので、最初はティッシュ

▼③丁子をさす



▲②穴をあける

①リボンをかける位置にするしをつける

ペーパーなどの上で乾かしてください。果汁が出なくなったら、風通しの良いところに吊して乾かしてください。

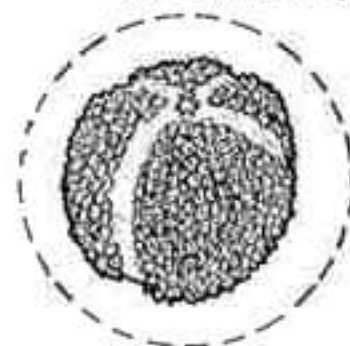
- ⑤半月ほど乾燥させると、縮んで表面はクローブがびっしり並んでいる状態になります。そうしたらリボンをかけます。リボンの裏に両面テープを貼ると、ずれにくいようです。

《飾り方》

部屋に置いておくと、半年くらい香りが楽しめます。

リボンをかけて完成▶

▼乾燥させると…ひとまわり小さくなる



とぴっくす

◆資料・パネルの

貸し出しがありました

名古屋市立博物館で8月28日より10月11日まで開催の特別展『よみがえる尾張医学館薬品会』に動物の生薬などの資料が貸し出されました。この特別展は動植物の実物標本などで薬品会を再現し、博物館・博覧会のルーツを探るものです。

INAXギャラリーで6月3日より8月27日まで開催された展示『携帯の形態』に、くすり博物館の印籠や往診用薬箱など、携帯用の様々な道具が貸し出され、展示されました。同展では、このほかにも旅行用の便利な道具などが展示されました。

◆今年も大人気！夏休みこども教室

7月31日と8月1日に合わせて40名の皆さんが参加し、こども教室が開かれました。

今年は恒例のカレー作りのほかに、ポマンダー作りが行われました。

（ポマンダーの作り方については、このページの上段をごらんください）

◆今月の薬草 説明会が

始まりました！

薬草園では、11月までの第1・2日曜日（10：00～10：45）に薬草の説明会を行っています。これは、その月に花を咲かせたり果実をつける薬草を中心に数種類の薬草を解説するものです。栽培や収穫、利用法も紹介していますので、ぜひご参加ください。参加希望者は、10時までにくすり博物館の受付までおいでください（予約や事前申込は必要ありません）。なお、雨天でも実施いたしますので、天候によっては雨具をご用意ください。

今までに紹介した薬草

《6月》ラベンダー・カミツレなど
《7月》アサガオ・ウイキョウなど
《8月》ハッカ・ホウズキなど

《9月》ナツメ・マタタビなど
《10月》《11月》は、アケビ・センキュウ・ユズなどを予定しています。

なお岐阜新聞の金曜日夕刊に連載していた、当薬草園アドバイザー逸見誠三郎の『薬草に親しむ』がこの6月をもって終了。この原画の一部は、館内に展示中です。

◆8月10日、NHK総合TVの「おはよう日本」で当博物館を紹介。

◆8月29日中日新聞岐阜版で薬草園の仙人草が紹介されました。

資料・図書のご寄託・ご寄贈者 ご芳名

栗島行春	大橋清信	奥田 潤
加藤栄治	北瀬富男	幸保文治
杉本寿満子	竹中 弘	田中助一
中村新三	久光製薬	飛見立郎
藤井 隆	藤野玲子	水巻中正
宮崎 惇	清原礎智子	（敬称略）

ありがとうございました

館長 岩井謙治郎 学芸員 森裕美（編集担当）・水野加代 学芸員/司書 野尻佳与子・伊藤恭子 庶務 川瀬麻起子
説明員 高橋千寿・小島敦子 薬用植物園 白井英夫 顧問 青木允夫・逸見誠三郎
内藤記念くすり博物館 9:00～16:00開館 月曜・年末年始（12/28～1/8）休館